

2020 東京オリパラに向けた本県からのホストタウン申請について (報告)

1 ホストタウン制度について

(1) ホストタウンとは

2020 年の大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げる。

◆ ホストタウン登録要件の概要

以下の取組みを行う地方公共団体は、ホストタウンとして登録できる。

① 住民等と次に掲げる者との交流

- － 大会等に参加するために来日する選手等 (例: 競技体験イベントや講演会の開催)
- － 大会参加国・地域の関係者 (例: 相手国からゲストを招き、歴史や文化を知る)
- － 日本人オリンピック・パラリンピアン (例: オリパラ終了後日本代表選手を招く)

② ①に伴い行われる取組みであって、スポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現を図ろうとするもの

◆ 国の支援メニューの概要

① 特別交付税措置

交流事業等に係る経費 (対象経費の一般財源合計額の 2 分の 1)

② 地域活性化事業債

国際競技連盟が定める基準を満たすために必要な既存の競技施設等の改修経費
(起債充当率 90%、元利償還金に対する普通交付税措置 30%)

(2) 登録状況と今後の予定

◆ 登録状況 (第一次登録申請の結果)

- ・ 申請件数 69 件 ⇒ 登録件数 44 件、継続審査 25 件 (相手国との交渉進捗待ち等)
- ・ 本県内からの申請はなし

◆ 今後の予定

- ・ 5/19 第二次登録申請の受付締切 (6 月上旬頃決定・公表)
- ・ 10 月末 第三次登録申請の受付締切 (11 月頃決定・公表)

2 検討経緯

(1) ホストタウン推進のための情報共有と協議

[平成26年]

- 9月 5日 市町・競技団体合同勉強会において構想説明
- 9月 9日 東京オリンピック・パラリンピックWGにおいて構想説明

[平成27年]

- 9月18日 市町・競技団体・大学合同勉強会において制度説明

[平成28年]

- 2月15日 事前合宿誘致・スポーツ魅力発信PT（庁内）において制度説明
- 2月16日 市町・競技団体・大学合同勉強会において制度説明
(内閣官房 担当官を招聘し説明)
- 5月 2日 事前合宿誘致・スポーツ魅力発信PT（庁内）において申請内容説明

※ 各市町、大学、競技団体等を対象にホストタウン申請に向けた情報共有、協議を随時実施

(2) 海外に向けたPR活動

- ◆ 琵琶湖をはじめとする豊かな自然などを活かした滋賀ならではのスポーツ交流を創出するという観点から、2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致およびホストタウンのPR活動をデンマーク及びオランダにおいて3/23～26の日程で実施。
- ◆ 事前合宿誘致等に向けたPR媒体の制作
 - ・事前合宿誘致パンフレット（英語版）
 - ・スポーツイベント等招致映像（ボート、障害者ボート、ホッケー、柔道・障害者柔道、大学施設につき、それぞれ日本語版・英語版、ロング版・ショート版を制作）

3 本県からの申請について

各関係者との調整を行い、5月19日締切の第二次登録申請に向けて以下の2件を県内から申請する。

(1) デンマークを相手国とした登録申請

- ◆ 申請団体名
滋賀県・大津市
- ◆ 交流計画の考え方
 - ・琵琶湖を活かした滋賀ならではのスポーツ交流を創出することを目指し、大津市や滋賀県の県競技関係者との交流実績のある、ボート競技を切り口とした交流を推進する。
 - ・ボート競技における実績やコネクションを通じて他競技との交流の展開、文化・教育などの交流拡大を目指す。
 - ・ホストタウンの推進により得られた成果を、滋賀県における2021年ワールドマスターズゲームズ、2024国体・全国障害者スポーツ大会等に活かす。

◆ 交流計画概要



(2) ニュージーランドを相手国とした登録申請

- ◆ 申請団体名
米原市・滋賀県
- ◆ 交流計画の考え方

- ・昭和56年(1981年)の第36回国民体育大会時ホッケー競技の会場となり、その後も、ホッケー競技に継続的に取り組んでいる。(これまでにオリンピックを3人、日本代表を15人輩出)また、近年の小・中学生や高校生の競技レベルはトップレベルにある。
- ・進出企業や米原市出身の男子ホッケー日本代表監督のつながりから、ホッケーの強国であるニュージーランドを相手国とし、ホストタウンを推進する。学生等の国際交流や英語教育の機会を充実させ、薬草、ピワマスなどといった、米原市が持つ地域資源とニュージーランドが持つ文化等との交流を行うことで、地域活性化を図る。
- ・ホストタウンによる国際交流とあわせ、新幹線駅や高速道路等による高い交通アクセス性も活かし、“ホッケーのまち”として、市民の関心を高めていく。

◆ 交流計画概要

米原市・滋賀県交流計画の概要

団体名	米原市・滋賀県
相手国・地域	ニュージーランド

2016～
(大会開催まで)

2020
(大会中)

2020～
(大会直後～)



“ホッケーのまち”米原市と、ホッケー強豪国 ニュージーランドとのスポーツおよび文化交流

国際交流
関係構築



地域住民に向けた
NZ文化の講演

NZ产品中心の
イベントを開催

NZの食料理や文化等と米原市
内の地域資源との交流

継続して
交流を
実施

ホッケー競技の
SEAを採用

小・中学校同志で交流し、
お互いの文化を発表

全国大会にNZの学生チーム等を
招待し地域住民と交流

NZのオリンピック等による
競技体験および地元交流会



ワールド
マスターズ
ゲームズ

2017年
開催地NZで
米原市をPR

2021年
ホッケー競技で
NZ住民と交流



新幹線駅等をいかして
学生等の全国大会誘致



施設改修 ▲---▲---▲

事前合宿

ホッケー
試合観戦



リオオリンピック
パブリックビューイング

東京オリンピック
パブリックビューイング

2024滋賀国体
現地観戦

2024オリンピック
パブリックビューイング